

わたしかたたよう そ うよたたかしたわ

浮島

「私が漂う。そうよ。ただ、火事だわ」

手帳を閉じた彼女は不意に呟いた

終電の社内には僕たち以外だれもいなくて
夜を泳ぐクジラのようにだと思つた

「ねえ」

「ガソリンの匂い、覚えてる？」

溺れていく意識のなかで

「ねえってば」

クジラは泳ぐ

永久に出られない水の底にいるみたいに

「ねえ」

8月に書かれなくなった手帳

「きいてる？」

溺れる

「あなたが殺したくせに」

無責任 五十四号

無責任 五十四号
責任者 清水らくは
副責任者 浮島
発行 無責任. zone
発行日 二〇一六年八月一日
<http://borderspoem.seesaa.net/>

遺作は逆さ白菜

清水らくは

似ていない親子の謎を聞きすぎて言われちゃったよ「このトマトの子！」

「茄子押すな！」そう言われたら押してみたい導火線から世界滅亡

芸術がいつも親父を狂わせる「俺の遺作は逆さ白菜！」